開催地名：埼玉県鶴ヶ島市	
開催日時	令和 3 年 11 月 6 日（土）　9:00～11:00
開催場所	鶴ヶ島市役所　庁議室
語り部	菊池満夫　　（岩手県陸前高田市）
参加者	自主防災組織、施設管理者、避難所担当職員
開催経緯	・近年大きな災害を経験していないため、災害対策本部の設置実績が少ない。 ・人事異動に伴い災害対策本部員も半数近くが変更となり、経験値が低いことから大規模災害時における行政運営に課題がある。
内容	（1）震災前の陸前高田 東日本大震災発生時、私は岩手県陸前高田市の企画部長として災害対応に従事していた。小さな市であるため、世帯数は約 8000、人口数は 2 万 4000 人程度であった。市の正規職員は 295 人いた。太平洋に面した地形であり内陸部は平地と山地に大別される。当時は 90%の確率で宮城県沖地震が起こると言われていたため、東日本大震災発生時、これが噂の宮城県沖地震かと思った。海岸部の防潮提の高さは 5.5 メートルあり、昭和 35 年のチリ地震による津波高を考慮して設計したものである。地震発生 3 分後の気象庁による大津波警報では津波高 3 メートルと予測されていたので、まさか津波が堤防を越えてくるとは思っていなかった。 （2）震災時の被害状況 平成 23 年 3 月 11 日、マグニチュード 9.0 の大地震が発生した。最大津波高は 17.6 メートル、浸水面積は 13 平方キロメートルであった。午後 3 時 14 分、気象庁は 6 メートルの大津波警報を出したが、その時点で市役所庁舎は停電し、その情報を耳にすることはなかった。午後 3 時 26 分の時点で津波が堤防を越えて市街地に押し寄せ、2 分後には水没した。午後 3 時 30 分、気象庁は 3 度目の大津波警報を津波高 10 メートルと発表したが、既に津波の襲った後であった。市役所庁舎では屋根・屋上部分に避難をして、ここで 227 名が助かった。近くにある 3 階建ての市民会館は水没。避難ビル・教育委員会の事務所・確定申告の受付として指定されていたため、ここでは市民 130～170 人が犠牲になってしまった。陸前高田市全体の死亡・行方不明者数は 1760 人、総世帯 99.5 パーセントが被災した。市の正規職員は 68 人が犠牲になり、庁舎は全壊、行政機能が崩壊した。このため、学校給食センターに災害対策本部を設置した。その後、仮設住宅・仮設トイ

	レの設置や支援物資の受け入れ・配布、マスコミ・来訪者対応、土地区画整理など市の復興・再建に取り組んでいったが、そのたびに多くの問題に直面し解決していくことに多くの時間を要した。 （3）震災から得た教訓 震災の検証を行い、その中で得た教訓を 3 点お伝えしたい。まずは、何よりも避難が重要だということ。津波の前に避難した人の 8 割は助かったため、自分の命を自分で守ることが一番大切である。そして、避難所に逃げたら終わりではないということ。一時避難所に避難したにもかかわらず亡くなった人が 300～400 人いた。一度逃げても、「次に逃げるとしたら」という想定をして、避難をしていただきたい。最後に、公的な役割を持つ者の安全の確保について。避難誘導を行った多くの市職員が犠牲になった。市役所の脇に老人福祉施設があり、複数の職員は当日そこで集まっていたお年寄りを助けに行き、亡くなってしまった。その経験から津波到達予測時間の 10 分前には高台に避難するというルールを決めて、周知している。災害はいつ起こるか分からないため、起こってしまった時には柔軟性を持って対応し、被害を最小限に抑えることも大切であるが、自分の命を守るということは忘れないでいただきたい。
開催地より	いざ災害が発生したときの対応として、大変参考になった。また、自分の命を守りながら、しっかりと災害対応にあたれるよう、市民の安心安全に努めていきたい。